留学生からの便り

イギリス語学留学報告

谷川　啓太*
Keita Tanigawa

弊社では，経済のグローバル化に伴う海外との取引増加に対応するため，職員の語学能力を開発し，企業の海外への対応力の向上を図る目的として，海外語学留学制度を設けています．筆者は，本制度による語学留学の機会を得て，2015 年 4～9 月の半年間の予定でイギリスはデヴォン州トーキーへ滞在し，現地の語学学校へ通っています．英語を母国語とする環境で英語を使って生活することは，毎日情報のシャワーを浴びているような感覚であり，様々な面で刺激的です．この環境を十分に活用して実践的な英語の習得に取り組む他，英語を使って何をすべきか，何ができるかを考える日々を過ごしています．また，様々な国の留学生たちとの交流は，これまで筆者自身が持っていた固定観念を覆すような発見も多く，色々と苦労もありますが，各国の文化や考え方を学ぶ良い機会になっており，これらも含めてこの語学留学は，自らの知見を広めるために非常に意義のある経験になっています．今回，語学留学とこの経験を通して得られた知見について報告します．

1．はじめに

筆者は営業本部営業部に所属しており，弊社の出資先でタイ王国にある Unithai Shipyard and Engineering Ltd.（以下，ユニタイ）の修繕船事業の営業代理店業務に携わっています．ユニタイ関係者および様々な国籍のお客様等とのやりとりは英語で行われますので，英語の語学力（以下，語学力）が必須となります．2013 年に現在の業務に就いてからの約 2 年間，英会話教室のレッスンや On-the-job Training によって語学力の習得に努めてはいたものの，正確に且つ迅速なやりとりが求められる場面では，自身の語学力の乏しさによる不都合を感じることが少なくありませんでした．

予てより「いつかは留学したいな」いうと思いはありましたが，今回幸運にも，語学留学制度によりそのチャンスに巡り会うことができました．現在の状況を打開するために，自分自身のレベルアップの時は今であるという思いと，半年間は自宅を留守にしなければならないという葛藤がありましたが，家族が快く理解を示してくれたこともあり，最終的にイギリスへの語学留学の機会を得ることができました．その後，準備や業務引き継ぎ等を経て，2015 年 4 月 1 日に渡英し，現在（7 月執筆中），9 月末まで半年間の語学留学中です．

2．語学留学概要

2．1　語学留学制度の沿革

弊社は，経済のグローバル化に伴う海外との取引増加に対応するため，職員の語学能力を開発すると共に，海外の経済・風土・文化・海運・造船事情等に精通することにより，企業の海外への対応力の向上を図ることを目的として，海外語学留学制度を設けております．1999 年に第 1 期留学生をイギリスはロンドンへ派遣して以降，2008 年（第 10 期）より派遣先をトーキーへ変更し，これまでに多くの従業員が派遣されてきました．

今回，私は第 16 期として，また当制度による 4 年振りの留学生として派遣されています．

原稿受理日：　July 24, 2015
*株式会社名村造船所　船舶海洋事業部　営業本部　営業部　営業二課

２．２　トーキー

現在の派遣先であるトーキー(Torquay)は，イングランド南西部のデヴォン州トーベイ地区の町です．ロンドン中心部から電車で約３時間半程の場所（ロンドン中心部から約 320km）に位置しており，小説家アガサ・クリスティ（1890 年-1976 年）の出身地として知られています．また，比較的気候も穏やかで，真夏の気温も 20 度を超える程度と過ごしやすいことから，夏場には多くの観光客が訪れる避暑地としての一面も持ち合わせています．

トーキーは都市部と比較すると小規模な町ですが，レストランやスーパーマーケット，衣類や生活用品が購入できる施設は整っており，生活面で不便はありません．また，エクセター，プリマスといった周辺の中規模都市へのアクセスも容易です．今の季節は，丘から見える海が美しく，また，町中心部やハーバー付近（写真１，２）は多くの観光客で賑わっています．

写真１　トーキーハーバー（町中心部付近）

写真２　ババクーム地区から眺める景色

２．３　語学学校

トーキーには複数の語学学校があり，私は Kaplan International Torquay 校（以下，Kaplan 校）へ在籍しています(写真3).Kaplan校には，欧州，南米，アフリカ，中東，アジアと実に様々な国籍の学生が在籍しています．Kaplan　校の特徴として，全体の比率では中東や欧米の学生が多く，アジアの学生は少数派です．基本的に学校内では英語以外は禁止されており，授業中は勿論，事務手続きや休憩中のクラスメイトとの会話も含めて全てのやり取りは英語で実施しなければならず，まさに英語漬けの環境が整っています（写真４）．

留学生は，イギリス国内の大学への進学を目指している 20　歳前後の学生，ビジネスに必要な語学力習得を目指すため勤務先から派遣されてきた人，キャリアアップのために休暇を利用，或いは会社を退職して留学している人などです．留学期間も，休暇を利用した２週間の短期滞在（既にある程度話せる人）から，９ ヶ月の長期滞在（初級レベルからじっくり勉強する人)の場合と様々です．

写真３　Kaplan 校外観

写真４　英語以外は禁止とする学内掲示物

２．４　講義の構成

まずは入学時に，語学力のレベルチェックためのテスト（ライティング，グラマー，面接）が実施され，この結果に基づいて，５ 段階の難易度別にメインのクラス（午前のクラス）が設定されます．以降は５週間毎にレベルチェックテスト（ライティング，グラマー，リーディング，リスニング）が行われ，講師による評価結果（受講態度・姿勢，スピーキング）と合わせて，フォローアップ（苦手な箇所

の指摘と改善方法の提案,実力に見合ったクラスへの変更)が行われます．また，午後のクラスでは，各留学生の目標や目的に応じてクラス編成されています．IELTS(International English Language Testing System)やCambridge Englishといった語学力判定テスト（英語圏の大学入学条件として，一定の語学力を保有していることを証明するために必要となる）の対策クラス，一般的なボキャブラリーを学ぶクラス，ビジネス英語に特化したクラスなどです．この中で，私はビジネス英語のクラスを受講しています．

２．５　講義の雰囲気

講義内容には,講師が一方的に話すだけにならないよう,講師が生徒へ意見を求めたり，生徒間でディスカッションをする機会が頻繁に組み込まれています．例えば，ある一つのテーマについて意見を述べたり，各自の意見を纏めて発表したりします.この時,自分の意見をひたすら話す人,絶対に意見を曲げない人，発音が独特なため何を言っているのかわかりづらい人等色々います．この上でお互いに自分の意見を理解してもらうように説明し，且つ相手を理解するように努めなければなりませんので，なかなか簡単にはいきません．また，テーマ自体が日本語で説明することも難しいような場合もあります．様々な国籍の留学生とのディスカッションは，文化の違いによる想定もしない意見がでるときもあり，色々と興味深くそして刺激的です．このように,講義中は非常に賑やかで活発に意見が飛び 交いますので，講師やクラスメイトの発言に常に集中しておく必要があり，緊張感を持って講義に挑むことになります．

２．６　課題と取り組み内容

日本人の語学力の特徴として，「文法はよく理解しているが，リスニングやスピーキングが弱い」という点がよく指摘されます．私も同様に，お客様等とのやりとりにおいて，リスニングに不安を感じることが多く，また，スピーキングでは簡単なフレーズで意思表示はできるものの，少し詳細な情報を追加したり，咄嗟の返答が必要な場合には中々言葉が出てこなかったりという状況でした．従い，この留学では，リスニングおよびスピーキングの強化を重要課題として取り組んでいます．

リスニングが課題の一つである以上，私が最初に苦労したのは，講師が話している内容を理解することでした．講師はゆっくりと説明してくれるのですが,「これらの単語を使って現在完了形の文を作りなさい」といった程度のフレーズも,Verb(動詞),Past Participle(過去分詞),Present perfect（現在完了形）等の単語に馴染みがなかったことも加えて，中々一度では理解できません．耳が慣れるまで最初の１ヶ月ほどは，講義中に何回も聞き直していました．

２つ目の課題であるスピーキングでは，他の学生が積極的に話すのに対して，私は文法や発音が気になってうまく話せない状況でした.「何でみんなこんなに流暢に話せるのだろう」と愕然としたものです．しかし，暫くすると，彼らは文法や発音が多少間違っていようと気にせずに発言していることに気がつきました．逆に言えば，文法や発音が間違っていようと大概のことは相手に伝わるということです.ここで,私は会話に慣れることから始めることにし,事前に幾つかの会話フレーズを頭に入れて，「とりあえず話してみる」ことにしました．最初は緊張して変なフレーズだったと思いますが，そこは留学生同士,お互いに指摘して表現を見直しながら継続していくと,いつのまにか会話が苦にならなくなり，また少しずつ会話が改善されていくのを実感できるようになりました．

語学学校開始から２ヶ月位経過した頃，次の課題が明らかになりました．だいぶスムーズに言葉が出てくるようになってきたなと感じ出した頃，ある友人から「発音にアクセントがないし，早すぎる，わかりづらい」と指摘されたのです．実際に自分のスピーキングを録音して発音を確認してみたところ，まさに友人の指摘通りで，自身がイメージしていたものとのギャップが大きく,衝撃を受けました．ここで，まずは発音記号の読み方と発声の練習からやり直し，そもそも「発音が下手」ではなく「発音が間違っていた」ことに気づきました．次にインターネットで英語のニュースや講演から，よく使われるフレーズの部分を繰り返し聞き，声に出し，正しい発音を覚える取り組みを実施しました．このように正しい発音を頭に入れていくと，リスニングにも効果がでてきました.今思えば当然なのですが,発音とスピーキング，リスニングは密接に繋がっていることを理解しました．

これらの課題については，引き続き取り組みをしています．この他にも，表現力や語彙を増やすために英文の記事や本を読んだり，正しい文書構成を身につけるために文法を細かく意識して会話に使用したり，色々試してみています．このように毎日英語に浸かって生活していると，頭の中での日本語と英語の翻訳作業がだんだん短縮化，そして

次第に省略化され，睡眠中の夢の中の会話も英語になってきました．英語を英語で理解するといいますが，少しずつ確実に語学力が身についてきていることを実感しています．

3．イギリスでの生活，地域と文化

3．1　ホームステイ

私は現地での滞在にはホームステイを利用しています．私のステイ先は，観光客の多い地区から離れた閑静な住宅地で，語学学校まで歩いて 15 分ほどの環境です．(写真 5) ステイ先には私の他，常時 1～2 名の留学生が滞在しています．ホストファミリーは長年に渡って多くの留学生の受け入れ実績がある経験豊富な人たちで，日本人が英語において苦手とする部分も把握されており，よくアドバイスをしてくれます．また，色々と話題に上がりやすいイギリスの食事ですが，ホストマザーの手料理は大変おいしく，そして毎日手の込んだ料理を作ってくれますので，すっかりイギリス家庭料理のファンになりました．ホストファーザーは，フレンドリーでよく冗談も言う方で，大変和やかな雰囲気の環境で生活しています．

写真 5　筆者のホームステイ先付近

3．2　イングリッシュパブ

イギリスの重要な文化の一つとして，イングリッシュパブ（以下，パブ）があります．パブは日本の居酒屋と Bar の中間のような雰囲気で，物価の高いイギリスでは割と低価格であり，1 パイント（568ml）の生ビールを£2.5～4.0（為替レート¥190/£の場合，約¥475～760）で楽しめることができます．

ビールの種類は，日本でも一般的なラガービール，そしてイングリッシュエールがあります．エールは泡立ちが少なく，ラガーのように冷やさずに室温で楽しむイギリスの伝統的なビールです．ラガーおよびエール共に数多くの銘柄があり，パブ毎に異なってきますので，注文する時にどの銘柄を選ぶのかというのも楽しみの一つになります．

トーキーにも数多くのパブがあり，毎週のように週末は友人たちと出かけています．(写真 6) パブにいるイギリス人はお酒も入っていますので大変フレンドリーです．たまに一人で行くと，カウンターで隣になった人との会話が盛り上がり，エールの各銘柄について話を聞いているうちに，すっかりご馳走になってしまったということもあります．イギリス人にとっては，パブはお酒を楽しむと同時に，様々な人たちとの出会いと会話を楽しむ大事な空間になっています．

写真 6　パブにて

3．3　紳士の国

イギリスは紳士の国とも言われますが，日常会話においてもそれはよく現れています．英語では日本語よりもはっきりものを伝える印象がありますが，実際はオブラートに包んだ表現が好まれています．語学学校では，状況や相手によって使い分けるために，同じ意味でも多くの表現方法を学びます．このとき，私自身は一般的だと理解していた表現が，実は相手にとって大変きつく感じるものであったということもあるので，注意が必要です．

また，学校では「Thank you と Please を忘れないように」と指導されます．実際に町を歩いていると，周りで頻繁に Thank you，Sorry，Excume me が聞こえてきます．都度相手を気遣うようなフレーズが自然に出るということは，そういう文化が人々の心に染み付いているのだろうと感じます．イギリスのこの文化は，私の中で良い印象の一つとなっています．

4．各国の留学生との出会い

4．1　それぞれの留学の目的と意識

今回，実にたくさんの留学生たちと知り合うことができました．それぞれが大学進学やキャリアアップ，自身の業

務への展開など目的が明確で，お互いが夢を語り合うような熱い話になる時もあります．あるフランス人の留学生は，10代前半時に第2外国語として英語を選択して以降は英語教育を受け，10代後半でありながらある程度の語学力を習得していました．現在大学ではファイナンス学を専攻されており，海外でこういう仕事をしたい，そのためにはまず外国人のインターンシップ受け入れができる海外企業を探している，もちろん日本も含めて！と夢に向かって熱く話してくれました．

また，既に母国語ともう一つの言語を話す留学生が多いことに驚きました．過去に住んでいたとか，国の教育システム上とか理由は様々で，中には6ヶ国語を話せる若い学生もいました（何故その中に英語が含まれていなかったのか不思議でしたが）．一方で，「何で日本人はあんなに英語が話せないの？」と言われることもしばしばありました．私にとって語学力習得というのは「いやー大変なんですよ」と大変な労力のいるものという考えだったのですが，多くの留学生が，外国語を学ぶということは「え，必要でしょ？」といった程度の大変身近で敷居は高くないものと捉えており，印象に残りました．

これらの友人たちとの出会いは，実に様々な目的や英語の習得方法があるものだと教えてくれるとともに，私自身も彼らに負けられないなという気持ちになり，この留学時のモチベーションの維持に役立たせてくれました．（写真7）

4．2　討論にて

ビジネス英語のクラスで，ディスカッションをする機会が頻繁にあります．この中で二手に分かれてネゴシエーション演習の機会がありました．この時私は”絶対に譲れない”条件を取ることができれば，他は駆け引きの材料として多少妥協してもよいと考えていたのですが，同じチームのフランス人とスペイン人は取れるところは全部取る（妥協しない）と言う考えでした．いざネゴシエーションが始まると彼らは凄まじい迫力で論理的に展開しました．また，相手の様子を伺いながら”行ける”と感じたのか，途中から更に勢いを増し，殆ど私の出番はなく，こちらの全要求に更に優位な条件を加えて相手側に飲ませるという結果を導き出しました．彼らは学生時代にディベートの訓練の経験もあったようです．Win-Win には程遠い完全に相手を飲み込んでしまう展開と彼らの満足げな雰囲気が強烈に印象に残りました．ビジネスの場では，こういう人たちとやり合う必要があるという改めての認識と覚悟にもなりました．

4．3　学生や会社員以外の留学生

語学学校には，複数の国から軍関係者も留学しています．陸海空と様々で，PKO 活動で世界各地に派遣されるために英語が必要な人，空軍パイロットとして英語が必要な人等がいました．他の留学生たちと比較して体も一回り大きいこの団体を，最初は「いかついな」と思っていたのですが，彼らはフレンドリーな場合が多く，すぐに打ち解けることができました．海外の現役軍人と知り合うことなどないと思っていましたので，貴重な出会いとなりました．

写真7　クラスメイトたち

5．語学留学の経験から得たもの

5．1　語学留学中に実施すべきこと

課題の再認識と反省点も含め，私の考える実施すべき事項を下記します．

1）早めに自分の改善点を把握する

語学力強化のためには，自分の改善点を把握しなければなりません．私はスピーキングとリーディングにばかり目が行き，発音の重要性に暫く気づくことができませんでした．英語に慣れるにつれて不足する点が見えてきますが，できるだけ早い段階で洗い出しできた方が良いと思います．

2）プレゼンテーション等の訓練をする

習得した語学力を実践するためには，実際の現場での使い方も学んでおく必要があります．語学学校では，プレゼンテーションやディベート等の講義もあるので，是非活用すると良いと思います．欧米の留学生はこれらを社会に出る前に済ませていますので，この差は大きいです．

3）欧米人の考え方を知る

考え方が我々日本人と大きく異なることを身を以て体験しました．特に，発言しない人は存在感がなく，自分の意見ははっきり発信しなければ理解してもらえません．

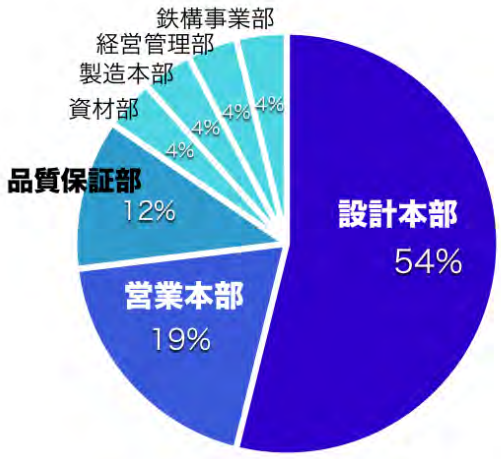
4）これらを楽しみながらやる方法を考える

何にでも言えますが，楽しみながらやる方法を考えると

よいと思います．この時に頼れるのはやはり同じ留学生の友人達です．友人達とは学校が終わった後も時間を共有できますので，一緒に出かけたり，パブでお酒を飲みながらだったり，イベントの企画をしたり，リラックスして会話を楽しみながら，お互い学び合うのもよいと思います．

５．２　得られた経験をどう活かすべきか

留学制度の過去実績（第１図）を見ると，これまで派遣されてきたのは設計本部や営業本部，品質保証部所属が８割を占めています．これは業務上の英語の利用頻度等が関係した結果と思います．



第１図　職場別 留学生派遣実績 比率

今回，語学力のレベルアップに加えて様々な知見を得ることができました．これらは，現在のユニタイ関連等の業務は勿論，社内の幅広い業務範囲において，重要なツールの一つとして，将来的にも力になってくれると確信しています．特に，世界を知る，世界から見られる我が国を知るという点で，異なる文化に触れ，ときにはぶつかったり，そして理解しあったりした経験は大きな財産です．これらを通して，異なる環境や変化への対応力が多少なり鍛えられたのではないかと感じております．

また，多くの若い学生たち（特に欧米）が海外での仕事を目指し，着々と準備を進めていることを再認識しました．今後も多くの人たちが海外展開への対応力を強化していくことを考えると，我々を取り巻くビジネス環境も更にスピードを増して変化していくことは確実であり，厳しい競争を生き残るためには，我々も様々な変化に対する対応力をつけていかなければなりません．

語学力はその対応力をつけるためのきっかけとなると確信します．今後の語学留学制度の活用により，社内全般に渡って語学力をつけた人材が更に増えれば，今後，弊社の対応力の強化，並びにさらなる進化につながることと思います．

私自身も，語学力を更に向上させる努力を継続するとともに，これらの経験を活用して自分に何ができるか，何をすべきかを常に考え，将来の変化への対応力をつけることを意識して今後の業務に取り組みたいと思います．

６．おわりに

今回，この報告文を記載することで，留学期間中に自身の経験を振り返ることができたことは，残りの期間をより効果的に過ごすためにも良い機会であったと感じております．これからもできる限り多くの経験を積み，そして人々や文化と出会い学べるよう最後まで全力で挑みます．本内容が，今後，本制度によって語学留学予定，或いは留学を目指す従業員の皆様のご参考となれば幸いです．

最後になりますが，今回の語学留学に関して，ご支援をいただいております関係者の皆様に感謝申し上げます．

また，今回の語学留学に快く理解を示し，半年間もの長期間，留守を預かってくれた家族に感謝いたします．